

乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.40

2017.9

最近話題の「高濃度乳房」とは？

「高濃度乳房」とは？

乳房は主に乳腺実質と脂肪組織から成り立っており、その割合は個人差があります。高濃度乳房とは乳腺実質の割合が多い乳房のことで、脂肪の割合が40～50%程度以下の乳房のことを言います。マンモグラフィ画像では乳腺実質は白く、脂肪組織は黒く写し出されます。高濃度乳房の方（全体の約40%）は乳腺実質の割合が多いため、乳房の大部分が白く写ります。しかし、高濃度乳房は病気を意味するものではなく、一般的には加齢と共に脂肪の割合が多くなっていきます。

「高濃度乳房」の場合、マンモグラフィで乳がんを見つけにくいのですか？

マンモグラフィでは乳がんが白く写し出されます。乳房の大部分が白く写る高濃度乳房では、乳がんが発見され難くなります。それに対して脂肪性乳房（脂肪の割合が90%以上）は乳房の大部分が黒く写るため、白く写し出される乳がんが発見され易くなります。マンモグラフィでの乳がん発見率は、高濃度乳房では33～69%、脂肪性乳房では91～100%となっています。

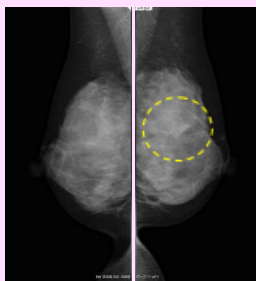
検診で「高濃度乳房」と通知してくれないのですか？

アメリカでは半数以上の州で高濃度乳房の告

知が行われていますが、これは人間ドックなどの任意型検診（個人の死亡リスクを下げるのが目的）です。それに対して、日本を含めた世界各国において行われている市民検診などの対策型検診（地域住民や国民全体の乳がん死亡率を下げるのが目的）では、高濃度乳房の通知を行っている国はありません。一方で、高濃度乳房かどうかを受診者が知る権利は尊重されるべきであるため、日本乳癌学会や日本乳癌検診学会等で高濃度乳房に対する通知や対応について議論が繰り返されています。しかし、高濃度乳房の通知をした場合、その対応として考えられる超音波検診では対策型検診として死亡率減少効果が証明されていないこともあり、「対策型検診において受診者に乳房の構成（高濃度乳房等）を一律に通知するだけでは不十分であり、現時点では時期尚早である。乳房の構成の通知は、今後検討が進み対象者の対応（検査法等）が明示できる体制が整った上で、実施されることが望ましい」とされています。

マンモグラフィでのがん発見には限界があるため、乳がん検診を受けるだけでなく定期的に自己検診を行い、自覚症状がある場合は速やかに医療機関を受診することが大切です。

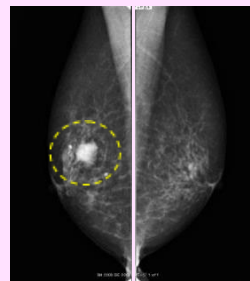
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
矢竹 秀穂



高濃度乳房

(マンモグラフィ)

乳房全体が白いので
白く写る乳がんが発見しにくい



脂肪性乳房

(マンモグラフィ)

乳房全体が黒いので
白く写る乳がんが発見しやすい

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

